

---

# collapse road

桜藍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

collapse road

### 【Nコード】

N7194M

### 【作者名】

桜藍

### 【あらすじ】

『3つの世界』は、確実に崩壊の道へと歩んでいた・・・。

都内に住む少年『神林撫子』は1学期終了式の日、秘かに想いを寄せていた少女『宮野知世』と一緒に、突然の『戦争ゲーム』に巻き込まれる。

続々と『別の世界』から現れる人々達。

今まで無関係だった少年・少女達は『1つの希望』に賭け、色々な人々と関係を築き上げてゆく・・・。

其々の想いと共に、『3つの世界』の崩壊は阻止することは出来るのか？

少年・少女達の、心の成長を描いた物語。

## ・ ・ ・ プロローグ ・ ・ ・ (前書き)

初めての小説です。

駄文ばかりですが最後まで読んでくれますと、とても嬉しいです。  
それでは、本文どうぞ。

## ・・・プロローグ・・・

### ・・・プロローグ・・・

この世には、『3つの世界』が存在すると云われている。

1つ目の世界は『平和に満ち足りた世界』

2つ目の世界は『戦いの耐えない世界』

そして、3つ目の世界は『異様な者しかない世界』

其々それぞれの世界には、世界を纏める『王』がいる。

其々の世界の『王』3人は、世界を『創る』時に決まりを1つ決めた。

其れは、『自分の世界以外に往き、戦争を起こす事を禁じる』決まりだ。

然し時しかは経ち、新たな『王』になった者は、決まりを訊いてふと想った。

「こんな決まり、オレ達で壊そう」

3人の『王』の内2人の『王』は賛成したが、1人の『王』は反対をした。

そんな『王』を見て、2人の『王』は怒り反対の『王』を殺した。

2人の『王』は死んだ『王』だった身体を食い千切り、またふと想った。

「こいつの世界で戦争を起こそう」

そう云うと2人の『王』は、戦争を起こす日を『10年後』にし、自分達の世界へ還っていった。

- - - - -『3つの世界』は、雑まざる事を許されない。

- - - - -雑まざる同時に、その世界は壊れる。

そう、

『平和に満ち足りた世界』は- - - - -。

-  
-  
-  
プ  
ロ  
ロ  
ー  
グ  
-  
-  
-  
E  
N  
D

・・・プロローグ・・・（後書き）

初めまして！この小説を書かせてもらってます、『山本遼』（やまもと はるか）と云います。

ちなみに、本名ではないですよ（誰も聞いてねーよ）

そんな訳で（どんな訳！？）ちまちまと掲載していきたいと思いますので、末永く宜しくお願いします！！！！



7月に入り、ジメジメとする時期になった。

俺、かみばやしなでしこ神林撫子16歳。（男だからな）只今、女の子に告つてます。

「・・・・・・・・はい？」

分かつてはいた、この反応が来るのは。でも俺は、この人しか好きになれない。そう思い

俺は告つたのだ。

「えつと・・・・初対面・・・・・・・・ですよね？」

「はい」

「あつ・・・・御免なさいつつ！！！」

そう云うと女の子は、素早く走り去っていった。

本日15回目の失恋。ああ、俺はなんと罪深い男なんだ。

・・・・・・・・と、まあ嘘はここまでにしといて。

俺の名前と年齢以外、話した事全部嘘です。はい。

何故、こんな嘘をつくのか。其れには理由わけがあるんですよ。

まあ簡単に云うと、今クラスで流行っている『下敷きピンポン』見事に35人中最下位と云う

記録を出し、その罰ゲームでお嬢様学校に通っている女の子を、

15人告る事になり・・・。

ええ、見事に15人全員に振られました。

「・・・・・・・・精神的に疲れたorz」

俺は近くにある公園のベンチで、休むことにした。

「あ、あゝ、眠い。<sup>ねみ</sup>ふああ・・・」

俺はベンチに寝転んで、寝る事にした。

ちなみに只今の時刻、午前11時57分。え？何故時刻を云ったのかだつて？

一樣な。云ったほうが良いって作者・・・じゃなくて、遠くから声が聞こえたもんで。

話を戻して。学校はと云うと、今日は終業式だった為に午前中に終わったのだ。

にしても、校長の話長かったな・・・。

・・・ふああ。あゝ、本当で眠い。<sup>まし</sup>いいや、もうこのまま寝ちゃ・・・。

・・・・・・・・ビチャチャチャツ!!!!

「うわあつ!?!」

突然、俺の顔面に大量の水が振ってきた。

こんな事をする奴と云ったら・・・。

「宮野さんっ！毎度毎度、俺の顔面にミネラルウォーターをぶ

っ掛ける癖、どーにかしろっ!!」

「何云ってるの？私は撫子君が寝てるのを見てると、どっかの中年サラリーマンに見えて

悲しい人に思われないように、起こして上げてるのよ。貴方の為に」

「それが、余計だっつーの」

俺は鞆からタオルをだし、顔や髪を拭き始めた。

そんな俺を見て、宮野さんは小さく優しい溜め息をついた。

宮野知世さん。同じ中学校に通っていて、バレー部キャプテン同士として仲が良かった。

今は別々の高校だが、暇さえあれば遊びに行く仲だ。

・・・実は秘かに恋心を抱いてる人だったりする。当の本人は、全く気付いていないが。

「で、今日は何処に行くの？」

「何時もの喫茶店で良くねーか？」

「良いわね、あそこのケーキ何個食べても美味しいのよね」

こいつ、またケーキ食うのか？

先週行った時も、確かケーキ10個ほど食ったような・・・。

「そんなんだから、太っちゃ」ピチャッ!!

「ぢゃっ!?!」

「レディに対して、失礼よ。撫子君」

「だからって水かけんなっ！つか宮野さんケーキ10個食ってんだから、

十分にレディじゃねーと」

「また、かけて欲しいの（黒」

「いえ、遠慮致します」

あゝ、怖い怖い。宮野さん、中学からあーで変わんねーよな。しかも俺、そんな宮野さんに恋してるし。

………………どーかしてるぞ、俺。

「ほら、拭いてあげるわよ」

「わっちょっ！／＼／＼」

ちよっ！？宮野さんが拭いてくれるって……！うつ嬉しいけど、何か……人前じゃ

恥ずい／＼／＼。

丁度、宮野さんが持つてるタオルが左目に重なった。

………その刹那………

『全軍突撃——————っ！——！』

『誰かつっ！助けてーっ！っ！っ！』

『ママー――――！！パパー――！！！！』  
どっおっっ！！！！！！！！！！』

俺の目に、全く別な世界が映った。

その世界は、何もかもが壊れていて、人間だっ・た者もいた。  
まるで戦争が当たり前な世界が視えた。

この世界とは、真反対の世界が――――。

「撫子君？大丈夫？」

「え？・・・あっああ、大丈夫だ・・・」

「そう・・・なら良いけど・・・」

そして俺達は、また歩き出した。  
にしても、さっきのはいったい何だったんだ？

「撫子君、本当に大丈夫？顔色悪いわよ」

「え？そう・・・か・・・？」

「そうよ、何時もの元気が無いし・・・。ちょっと水、かけ過ぎたかしら・・・」

「だっ大丈夫だって！！宮野さん。水ぶっ掛けられるの、しょっちゅうだし」

てゆーか、宮野さんに話しても信じてくれないと思うしな・・・。

「じゃあ、もっと水かけてもいいのね」

「今日は、お断りします」

そう云うと、宮野さんはムツとした顔で前を向きスタスタと歩いてしまった。

俺はそれを後から追う。まあ、ちょっとフザけてるだけだと思うけど。

「あ、着いた」

「本当ね、早く席に着きましょ！今日は何のケーキから食べようかしら・・・」

「何個食う気だよ」

厭あきれながらも、俺は宮野さんに問う。

「良いじゃない、別に」

笑顔で返事を返してくれた宮野さん。

「いーけど・・・ハハッ」

「ウフフッ」

俺の笑いに釣られてか、宮野さんも笑ってくれた。

そうしながら、俺と宮野さんは喫茶店の中に入った。其の時の俺は、さっきの事をすっかり

忘れていた。

何時もの場所で・・・。

何時ものように過ごす・・・。

まさか、今日が『平和の終わる日』とは知らずに・・・。

・・・平和の終わる日・・・  
END





――1：平和の終わる日―― 撫子視点（後書き）

ふいふ。やっと1話が終わりましたよお。

んで、1日おきに更新ってドーヨ。（駄目だと思うヨ）

まあ、こんな亀みたいな更新デスけど、読んでくれたりしたら凄く嬉しいんで。

感想もあつたら送ってください！！お願いします！！！！  
では×2また次の話で。

山本遼

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7194m/>

---

collapse road

2010年10月10日00時30分発行